

手支援室や営農指導員を中心に法人や担い手農家に寄り添った活動を続けていくことが重要と考えております。

■ 太平品質向上物流合理化施設について、今後の修繕費は見込んでいるのか。利用料が年々上がっているのではないかと。計画的な予算案を立てて、また、米をより高く売る販売方法も考えてほしい。

■ 太平品質向上物流合理化施設では、施設の状況を確認しながら優先順位をつけ、部品の交換や施設の修繕を計画的に行っています。利用料は、施設の収支バランスを考慮した料金設定とさせていただいておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

■ 座談会資料の農業労働力支援の項目にある農業1日バイトアプリ「day work」の取り組みをすぐに行ってもらいたい。米や梨のパートをうまく回してほしい。

■ 現在は活用できる状況にありますので、ご希望があれば個別に対応いたします。

■ J A秋田なまはげ営農情報のLINEを、部門別などでグループを3つくらいに分けてほしい。そうすることで情報をもっと綿密になるのではないかと。別のかたちなどもふまえて、検討してまいります。

■ 集落営農や法人化に、J Aが先導となって取り組んでもらいたい。

■ 法人化への助力や担い手対策などを、意見を伺いながら進めていきたいと思えます。

■ 園芸品目の支援事業のひとつにアタッチメントの貸出があるが、詳細を教えてください。

■ 生産性の向上に向けた排水対策として実施するもので、トラクター30馬力以上に対応するプラインソフ、溝掘機を1台ずつ配置し貸し出すものです。

■ 座談会が集約されても参加する組合員が減っている。地域性に合った内容の座談会や、場所を変えて懇親できるような移動座談会など、変わったことはできないか。

■ 場所なども含めて、地域の希望に合った内容で開催できるよう検討します。

■ 成行きシミュレーションで令和10年度には△6億3200万円の事業利益赤字と出ているが、最下のシナリオとはいえ、このような赤字を黒字に持つていくことは相当ハードルが高いと考えるので、実効性のある現実的かつ具体的な施策を策定することを望む。

■ 仮決算から見ても、成行きシミュレーションの下がり方がきついのではないかと。

■ 今期の成行きシミュレーションは決算結果をもつて最終更新を行います。何も対策を講じなければ最下の収支シミュレーションとなるため、様々な対策を講じながら黒字経営の維持を目指してまいります。

■ 職員の充足率はどうか。事業量に対して職員数が少なすぎる。今までの経営者が問題を先延ばしした結果ではないのか。

■ 転職がスタンダードになっている時代であり、減少

した分の採用が思うようにできていない現状があります。計画的な採用と人材育成を今後も行ってまいります。

■ 相談機能の充実を図るため、月に何日か地区の役員から支店にいてもらうことはできないか。

■ 理事の出務については以前に実施しておりましたが、合併前に協議して行わないこととした経緯があります。

■ 仮決算の説明があったが、ここ数年出ている事業分量配当について次年度はどうか。

■ 事業利益が計画を大きく下回る見込みであり、固定資産の取得や修繕などの支出に充てる原資も積んでいかなければならず、現状では非常に難しいと言わざるをえませんが、内部で十分に協議し検討してまいります。

■ 男鹿中給油所の存続は大丈夫か。

■ 当該地区の重要なライフラインであるため、存続してまいります。

